

伊達市立伊達小学校

指定年度：H30～
児童数：520名

1 包括的な学校改善に向けた取組の概要

① 教育理念や経営方針の浸透

校区の保護者及び地域住民は、本校卒業生も多く、教育への関心や学校への期待が高い。この度の新型コロナウイルス感染症への対応についても、保護者や地域住民の理解と協力があってはじめて、感染防止対策を実施できることから、例年以上に教育理念や経営方針の浸透を心掛けた。

○ 教職員や保護者、地域住民との目標の共有化

- 新型コロナウイルス感染症への対応に係る4月当初の経営方針の変更
- 学校運営協議会での意見交換の機会の設定
- 毎月の学校だよりでの情報発信
- 学校評価（教職員、保護者、学校関係者）の実施を通じた改善の視点の共有
- 「オンライン学習導入モデル事業」を活用した取組の共有
※上記事業の取組を発信することで、コロナ禍での学びの保障や次年度からのGIGAスクール構想に基づく取組内容を共有することができた。



【学校運営協議会の様子】

② 協働意識の高揚

学校力推進委員会を設置し、分掌部長や学年主任を通して組織としての方向性や業務推進内容を確認し、分掌や学年内で取組を推進した。事業指定から3年を経て年齢構成も大きく変化してきたことや、新型コロナウイルス感染症に係る様々な対応から、改めて協働意識の高揚を図るとともに、組織で課題解決を進めることの重要性の浸透を心掛けた。

○ 校務分掌を工夫した組織体制の確立

- チーム学校としての取組「焦点化、見える化、徹底・継続」
 - ・危機管理・情報共有の徹底
※学校力推進委員会や学年主任会議での、経営方針の徹底及び方針に基づいた取組の徹底
 - ・「焦点化、見える化、徹底・継続」の徹底を図った教育活動の実践
 - ・数値やデータに基づいた共有化を原則とした質の高い教育活動の展開



【オンラインでの家庭学習支援の様子】

③ 人材育成

初任段階教員や本校が2校目となる若手教員が占める割合が増加したことから、学年内研修だけではなく、意図的に分掌業務やプロジェクト業務に参画する経験を通して、必要とされる資質・能力の育成を図った。

また、指導側の若年化も進んでいることから、業務上必要な知識や技能、考え方などは、全体に対して明確に指導することを心掛けた。

○ 教員の経験年数等に応じた育成計画

- 視察研修への初任段階教員の参画
- ミニ研修の実施
 - ・ミニ研修による課題解決研修の実施（5月から平均して月1回の実施）
 - ・各教職員のキャリアを生かした課題別の担当者を設定



【ミニ研修の様子】

2 取組の成果と課題（□：成果 ■：課題）

□教育理念や経営方針の浸透

【後期 肯定評価 94.3%（職員） 92.2%（保護者）】

□協働意識の高揚

【後期 組織としての対応 91.2%（職員）】

【後期 連携・協働をした組織としての業務推進 100.0%】

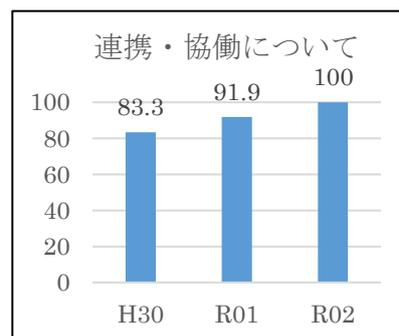
□人材育成（資質向上・業務推進）

【後期 授業研究 97.0%、資質向上・業務推進 100.0%】

■人材育成（授業研究）

【後期 児童の思考力を養う授業づくり 81.8%】

※学力課題（算数科）、組織課題（ミドル層の活躍）、小中連携意識の向上、職員風土の醸成等の課題解決が、今後の学校力向上に関わる本校の課題と捉え、改善を図る必要がある。



【職員評価「連携・協働をした業務推進」】